

子供のために 騒音を抜け出して那須町へ



芸術家として活動している悠紀さんが絵を手掛けた絵本。



週に3回は新幹線で東京に通勤している悠紀さん。多朗さんは月曜日から金曜日までは地域おこし協力隊として勤務している。夫婦2人が自宅で仕事の日は子どもの面倒を交代でみたり、両親にお願いしたりする時もあるそうだ。

「両親が近くにいるって大きいですね。親戚がたくさんいるっていうのは良かったですよ。そうでなかつたら破綻してると思います(笑)。」

那須中央中学校校歌

作詞 石田多朗
作曲 桜井悠紀

旅路は今 拓きし大地に
東の光 描くしるべ
鎮める茶白は
見守る御祖のよう
いつまでもここにある
歩め 那須中央中学校

この縁が 今日に萌えるから
息吹は心 洗うのだろう
古城の桜は
つとめし祖の明日なり
幾度もめぐり来だれ
繁ごう 那須中央中学校

生命は今 尊き日にある
滴る水は 余菴に弾み
やがての世界へ
景色を映しゆこう
我が掌の熱を
放て 那須中央中学校



「古い日本の文化をいいなつて思っている人が増えてきているので、自分が何か出来ることはないと日々思っています。」



那須町中央部に移住

石田さんご家族

夫の石田多朗さんは2017年に那須町地域おこし協力隊となる。東京都出身。フリーの作曲家としても活動。妻の悠紀さんは芸術家として活動。都内に勤務。以前は東京都文京区に住み、2017年5月に那須町へ移住。



作曲の仕事が 那須町と繋がる。

那須中央中学校の校歌の作曲を手掛けた多朗さん。那須町に移住する数年前に那須町でピアノのコンサートを行ったことが元々のきっかけで、この仕事が舞い込んで来た。妻の悠紀さんも黒田原中学校（現在の那須中央中学校）出身という縁もあって、石田さん夫婦が那須町に遊びに来てくださり、その場で直接校歌の作曲制作の依頼を受ける。作詞は悠紀さんが手掛けた。

那須中央中学校の校歌の作曲を通して減った分、子育てに回せるようになったといったところだ。那須町は空氣や水がきれいで、なにより静かであることが二人にとってかなり印象が良かつたようだ。

都会にいた時は感覚を麻痺させながら暮らしていた。移住してからそれを痛感した。

移住してからは騒音に関しては全くストレスはなくなつた。那須町は空氣や水がきれいで、なにより静かであることが二人にとってかなり印象が良かつたようだ。

那須中央中学校の校歌の作曲を通して減った分、子育てに回せるようにもなつたという。

那須中央中学校の校歌の作曲を通して減った分、子育てに回せるようにもなつたといふ。地域おこし協力隊の活動として那須民謡をもう一度甦らせようと、民謡を研究したり音楽講座などを開いている多朗さん。作曲家としての仕事を通して、那須町を盛り上げる為に活動している。

子どもにとつても 大人にとつても 暮らしがやすい町。

那須町に移住してから、子どもの手足が太くなつたと感じる多朗さん。東京へ行つた時に、他の子と比べて一人だけガチツとしていたそうだ。家と家の間隔も広く、敷地も広い。大きな声を出しても近所迷惑にならないのでストレスを溜めることなくのびのび育つているのだろう。子育てにはおすすめの環境だと語る。実際那須町に移住して石田さん夫婦は地元の人たちの優しさに触れたという。

「皆本当に優しいんですよ。ただ甘やかしてくれるって訳ではなく、ウエルカムつてやってくれるからこそに移住してある意味ラッキーだったのかもしれません。未知の場所に行つて歓迎されるとホッとしますよね。」と多朗さん。多朗さんは、若いうちにこそ那須町に来るべきだといふ。体を動かせるうちだと古い家を安く借りて自分たちで好きにリノベーションをすれば楽しみながら経験値もつく。お金も掛からない。子どももそんな親の姿を見て立派だな、と思ってくれるだろう。都内へも通えない距離ではないし、仕事を



「那須町に住んで、一回も東京に帰りたいと思ったことはないです。」那須町への愛着心がひしと伝わる。

回せるようになれば後悔することはないのではないか。永住は人によつては勇気がいることなので、お試して長期間滞在出来るシステムがあると外から人が来やすいのではないかだろうかと多朗さんは考えている。キッチンも使える、寝泊まりも出来る、インターネット環境などある程度整つていればフリーの仕事をされている人はおそらく都会には戻れなくなるだろう。特にアーティストや小説家のように静かな環境でこもつて仕事をする人にとっては最高の場所だと思う。

「一ヶ月でも一週間でも良いので、一回来てみれば気づくことがあると思う。それで住めるかどうかはそのあと考えればいいです。東京ほど暮らすのにお金が掛かる訳ではないので、マイナスになる点はそんなにないんですよね。」と悠紀さん。

現在の住まいは、二人の知人にも協力してもらって見つけた空き家を借りて住んでいる。自然の中に住むことに満足の様子。しかし森の中ということもあり、湿気や草木の手入れが大変だったという。「こういう場所だつたんだっていうのを初めて知りました。都会ならしっかり整つた状態で貸してもらえたので。」

自然と身につく 良い暮らしのための知恵。

決して優しい環境ではないが、自然があるところに来ると自分が心地よく暮らすための知恵がついてくる。

「生きるための術と言いますか。例えばこの窓を開けたら風通しが良いかとか、こここの木を切つたら日が入りやすいとか…。」と悠紀さん。たまの休みには家族で朝から町内の温泉に行くのだという。何ヶ所か行

く場所は決まつていて、この時間帯ならここ、土日は混んでいるからここで、この道は混むから裏道を使って渋滞に巻き込まれないようになど。休日は観光客が多い那須町に住んでいるからこそ備わる知恵もあるのだろう。



ドラ集めが趣味の多朗さん。ここなら毎日鳴らしても大丈夫だろう。



多朗さんの作曲部屋と家族の寝室。
休日には借りている空き家を自分たちが住みやすいように少しづつリノベーションをしながら楽しんでいるという。

「都会に戻つてしまふ人は思ったより自然の中での生活がきついと感じてしまったからだと思うんです。でもその環境を工夫しながら楽しめる、楽しむために勉強したいという人なら絶対住めちゃうと思います。」

